

# オウム真理教

## 危険な体質を堅持するオウム真理教

オウム真理教は、「Aleph」<sup>アレフ</sup>、「山田らの集団」及び「ひかりの輪」の主要3団体を中心に活動を続けている。主要3団体ともに依然として麻原の影響下にあり、現在も無差別大量殺人行為に及んだ当時の危険な体質を有している。

主流派（「Aleph」及び「山田らの集団」）は、麻原への絶対的帰依を明示し、施設内に麻原の写真（①②の赤枠内）や麻原がその化身であるとするシヴァ（大）神を描いたとされる絵画（①②の青枠内）を掲示するなどしている。

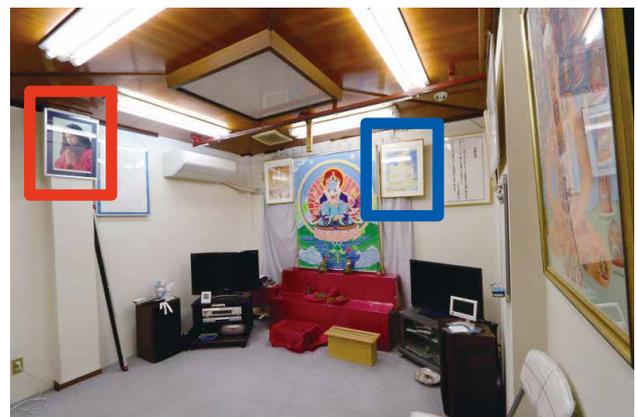
「Aleph」は、再発防止処分（後述）により、

### オウム真理教・主要3団体

現在でも危険な体質		立入検査で非協力姿勢	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○依然として麻原の影響下</li> <li>○出家した構成員の多くが両サリン事件以前に加入</li> <li>○殺人を勧める危険な教義を保持</li> <li>○上命下服の閉鎖社会を保持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○検査官の質問を無視</li> <li>○「答える義務はない」、「見てのとおり」などの回答</li> <li>○特に「Aleph」は非協力姿勢が顕著               <ul style="list-style-type: none"> <li>・速やかに応答、開扉せず検査の遅延を図る</li> <li>・ビデオカメラ等で検査官の容貌等を撮影、けん制 など</li> </ul> </li> </ul>		
主流派		上祐派	
「Aleph」	「山田らの集団」	「ひかりの輪」	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○麻原への絶対的帰依を明示</li> <li>○施設内に麻原の肖像写真</li> <li>○再発防止処分下で一部活動制限</li> <li>○ウェブ会議システム等を利用したセミナー等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○麻原への絶対的帰依を明示</li> <li>○施設内に麻原の肖像写真</li> <li>○「Aleph」と同様の教材等を多数保管</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○麻原への絶対的帰依を明示せず</li> <li>○“麻原隠し”の取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内に麻原と同一視した仏画</li> <li>・麻原関連の「聖地巡り」</li> </ul> </li> <li>○トークイベント、SNS等を活用</li> </ul>	



①横浜施設（「Aleph」）の祭壇（6月）



②金沢施設（「山田らの集団」）の祭壇（7月）

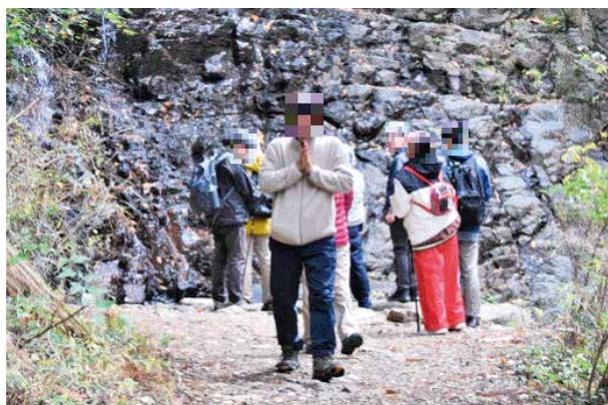
施設の使用が禁止されていることから、ウェブ会議システム等を利用して「集中セミナー」を開催するなどした。「山田らの集団」は、「Aleph」同様、麻原の説法等を収録した教材等を使用しながら、活動を続けている。

上祐派（「ひかりの輪」、代表・上祐史浩）は、“麻原との決別”や“主流派との違い”を主張するなど「脱麻原」、「脱オウム」をアピールしている。しかし、施設内に麻原と同一視した仏画等を掲示したり、上祐自ら“麻原ゆかりの地”とした神社仏閣等を訪問する「聖地巡り」を繰り返したりするなどしている。

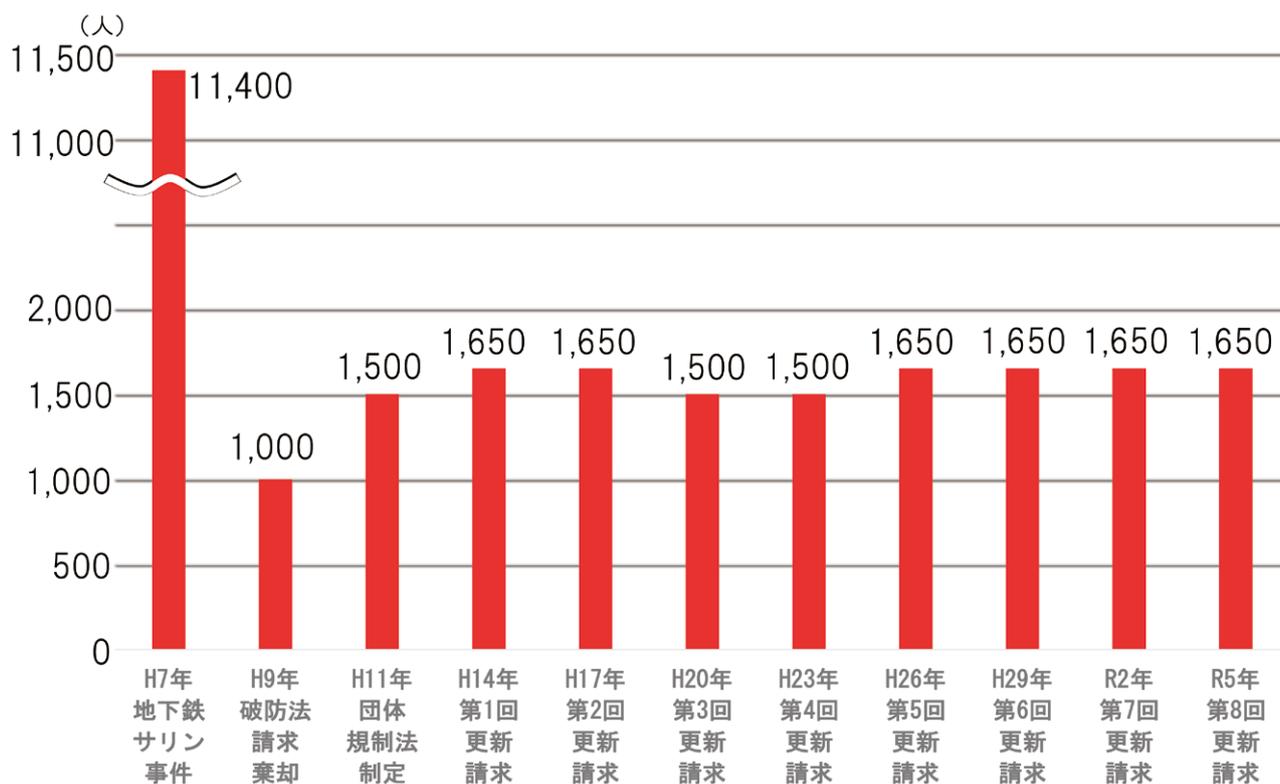
主要3団体では、離脱者がいる一方で、継続的な勧誘活動により若い世代を中心に毎年多くの構成員を獲得しており（P.70 COLUMN①「ターゲットは若者！」）、オウム真理教の構成員数は、近年、約1,650人で推移している。



南烏山施設（「ひかりの輪」の仏画（2月）。「釈迦牟尼」等の仏画を麻原と同一視



「聖地巡り」の様様（11月、山梨）



団体の構成員数の推移

公安調査庁による立入検査に対しては、主要3団体とも非協力姿勢を示し、活動状況等を明らかにする意思はみられない。

取り分け、「Aleph」の非協力姿勢は顕著であり、4月には検査拒否事案や再発防止処分違反・検査妨害事案も引き起こした(公安調査庁が大阪府警察に告発)。

## 立入検査実施施設

(令和5年〈2023年〉実施分)

凡例

施設名	検査実施日
-----	-------

埼玉県

大宮施設	1/13 8/1
北越谷施設	4/11 6/13 11/24
八潮伊勢野施設	6/16 12/5
八潮大瀬施設	6/23 12/18

石川県

金沢施設	7/24
------	------

滋賀県

甲賀信楽施設	6/28
--------	------

京都府

京都施設	3/24 10/26
------	---------------

大阪府

生野施設	4/19 11/21~22
東大阪施設	7/19

北海道

札幌施設	4/26 11/15
札幌白石施設	4/26 11/15

宮城県

仙台施設	1/19 8/17
------	--------------

茨城県

水戸施設	6/8
------	-----

千葉県

野田施設	6/16 12/5
------	--------------

東京都

南烏山施設	2/21 9/25
足立入谷施設	3/28 12/7
西荻施設	4/14 10/18
武蔵野施設	6/4
新保木間施設	9/5

神奈川県

横浜施設	6/6 11/29
------	--------------

徳島県

徳島施設	6/20
------	------

福岡県

福岡施設	7/4 10/4~5
------	---------------

愛知県

岩倉施設	2/16 8/4
名古屋施設	3/26 12/13~14

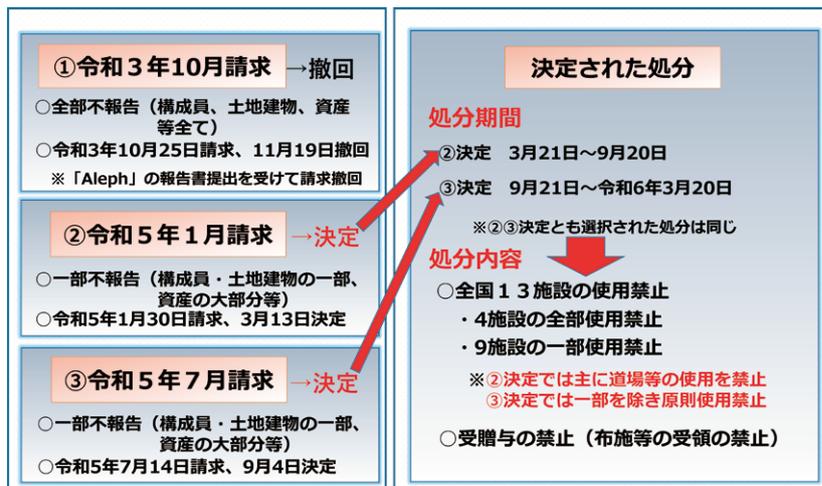
長野県

小諸施設	8/31
------	------

## 団体規制法施行後初の再発防止処分を課された「Aleph」

オウム真理教は、団体規制法に基づき、3か月ごとに構成員、施設及び資産等を公安調査庁長官に報告することが義務付けられている。しかし、「Aleph」は、資産等の不報告を続けたため、公安調査庁長官は、令和5年中2度にわたり公安審査委員会に再発防止処分を請求した。その結果、「Aleph」は、施設の使用禁止及び布施等の受領の禁止の処分を課されたが、現在もなお不報告を続けている

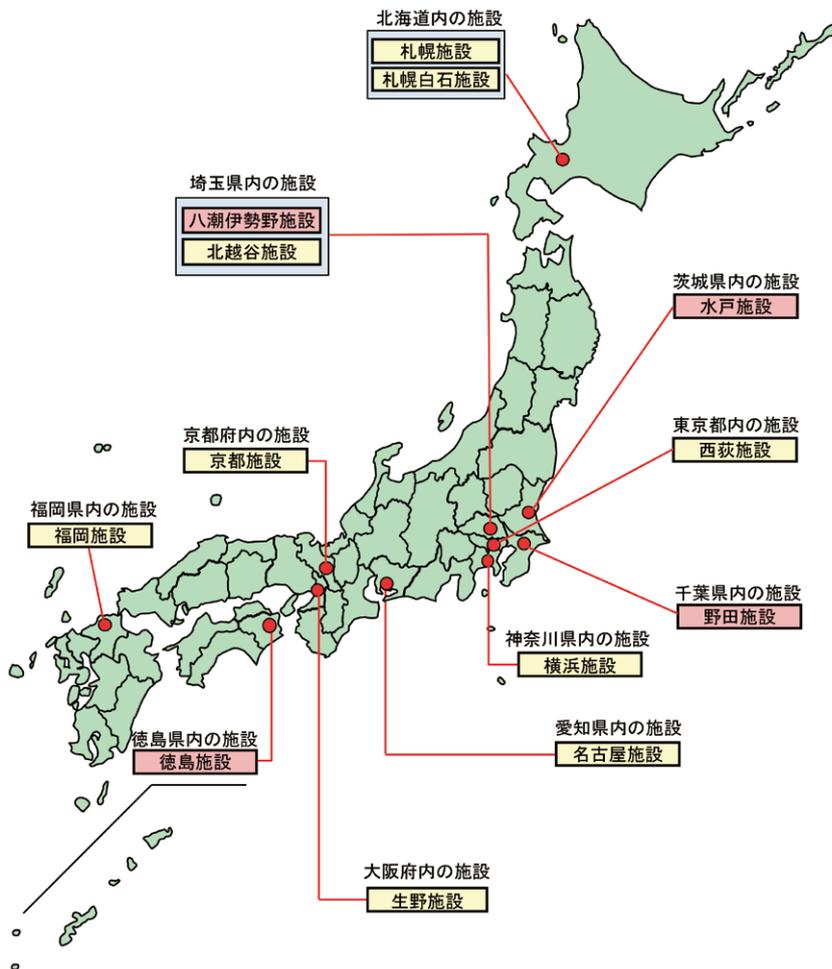
(P.72 COLUMN②「Aleph」の“資産隠し”)。



「Aleph」の不報告による再発防止処分

### 使用禁止処分対象施設一覧

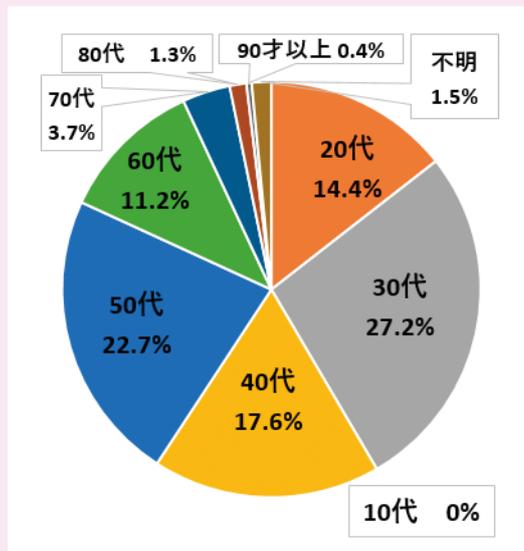
- は施設全ての使用を禁止する施設(4施設)
- は施設の一部の使用を禁止する施設(9施設)



## ターゲットは若者!

### 構成員の4割以上は30代以下

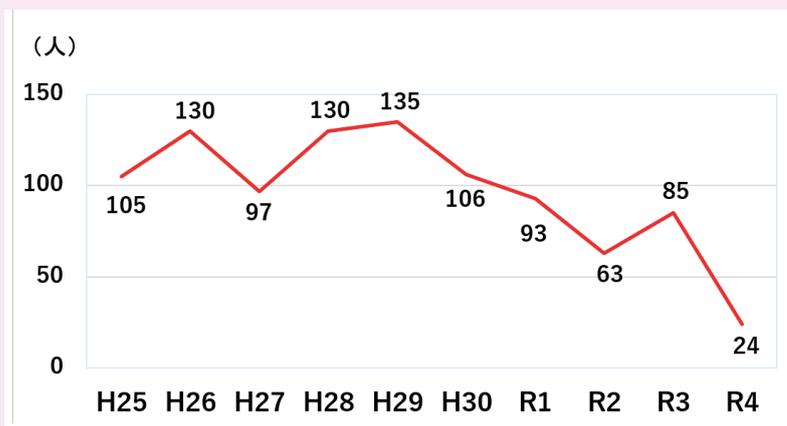
「Aleph」、「山田らの集団」及び「ひかりの輪」の主要3団体から報告された構成員を年代別割合で見ると、20代、30代の若い世代が4割以上を占めている。これは、若い世代への勧誘活動が成功していることを示すとともに、次世代の育成が行われていることをうかがわせる。



団体が報告した構成員の年代別割合(令和5年7月末現在。なお、「Aleph」は、平成27年以降、未成年構成員をほとんど報告せず)

### 多数の新規構成員を獲得

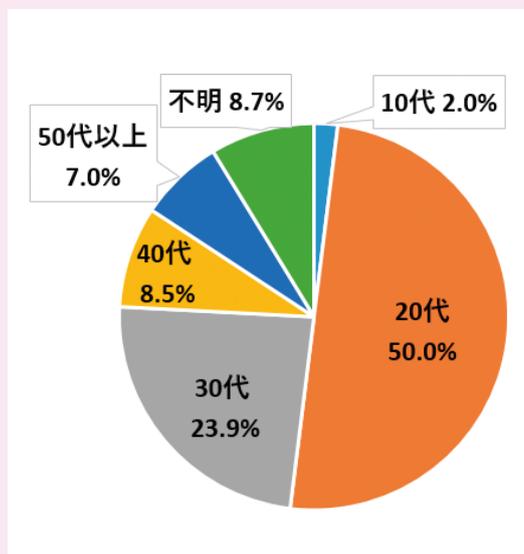
主要3団体は、毎年、多くの新規構成員を獲得し続けている。近年その数はやや減少していたが、新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことから、勧誘活動の活発化が懸念される。



団体が報告した新規構成員数の推移

### 若い世代の獲得に成功している実態

主要3団体が獲得した新規構成員の年代は、20代と30代で全体の7割以上を占めている。これは、若い世代が松本・地下鉄両サリン事件等の知識が少ないことにつけ込んだ勧誘活動の結果と思われる。



団体が過去10年間に報告した新規構成員の年代別割合。なお、構成比は小数点第2位以下を四捨五入しており、合計値は必ずしも100%とならない

## 勧誘の手口

「Aleph」は、団体名を秘匿して、特に若い世代を対象とした勧誘活動を全国で組織的に展開している。

### 「Aleph」の若者勧誘の手口のイメージ(一例)

#### ■ 第1段階－アプローチ

- ✓ 団体名を秘匿
- ✓ SNSで偽装サークルを設定
- ✓ サークル仲間等を募集

#### ■ 第2段階－人間関係を構築

- ✓ 勉強会で悩みを聞くなど
- ✓ 陰謀論を展開  
「地下鉄サリン事件はオウム真理教以外の者による陰謀だ」

#### ■ 第3段階－入会へ

- ✓ 団体名を明かして入会を促す
- ✓ 強い口調で詰め寄ることも

**<無料>メンタルヘルス講座★**

会場 ●●市内のカフェ  
対象 18歳～30歳  
メンバー募集中!

今までの自分を変えてみませんか?

(実在する偽装サークルの募集案内に基づき当庁作成)

---

お問い合わせありがとうございます。将来が不安な気持ちよく分かります。よろしければサークルの説明会をオンラインで開催します。ご都合の良い日はありますか?

土日であれば空いています。

---

では、●日の●時はいかがですか?当日、ミーティングのIDとパスワードをお送りします。〇〇さんのお話たくさん聞かせてください。楽しみにしています。

(実際のやり取りに基づき当庁作成)

## 新規構成員への指導とは

「Aleph」の入会者には、「新会員ガイドブック」等が配布される。そこでは、毎日の来道(道場に通うこと)や修行、「グル」(精神世界における指導者、導き手。麻原を指す)への帰依のほか、インターネットやテレビ、新聞等から得られる情報を遮断することなどが推奨されている。

### 「新会員ガイドブック」の内容(要旨抜粋)

- ◆できるだけ毎日来道しましょう。
- ◆修行がある程度進むと、誰もが神秘体験をします。
- ◆すべての方に、今この瞬間から始めてもらいたいの、「グルを意識する」ということです。その恩恵はとても大きいのです。
- ◆功徳を積むための代表的な修行としては、布施や奉仕(バクティ)があります。常に積極的に功徳を積むため、まずは自分のできる布施・奉仕から始めましょう。
- ◆真理の教えにのっとった正しい生活を送るためにも、できるだけ情報遮断(テレビ、ラジオ、インターネット、新聞、雑誌等を見聞きしない)を心掛けるようにしましょう。



「Aleph」の札幌施設に対する立入検査(4月)で確認した多数の「新会員ガイドブック」



「新会員ガイドブック」中、グルを意識することの重要性について記載されたページ



「新会員ガイドブック」中、情報を遮断することの重要性について記載されたページ

## 「Aleph」の“資産隠し”

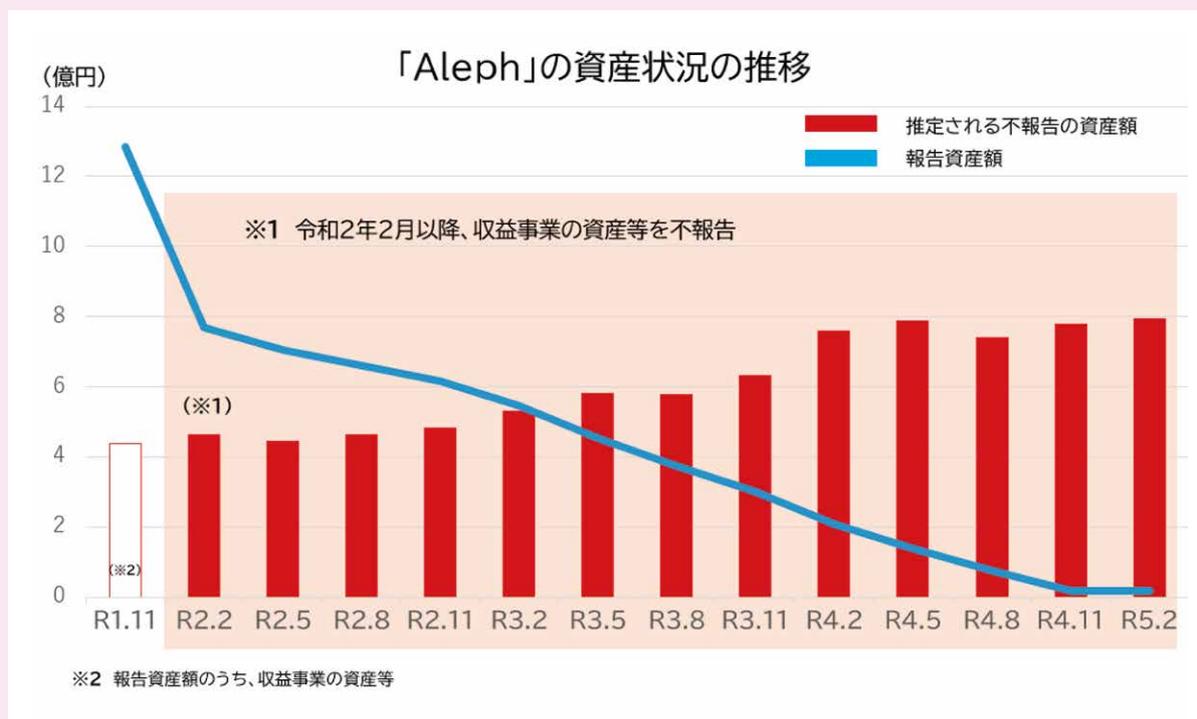
### “資産隠し”の理由

「Aleph」は、団体規制法に基づき、全ての資産等を報告する義務を負っているが、令和2年(2020年)2月以降、報告事項の一部を報告していない(一部不報告)。この一部不報告には、「Aleph」が実質的に経営する複数の収益事業(出家した構成員が在家の構成員に対する物品販売等を行うなどの事業)の資産の不報告が含まれる。「Aleph」がこのような資産の不報告を続けている理由には、“資産隠し”の意図があるものと思われる。すなわち、「Aleph」は、地下鉄

サリン事件等の被害者・遺族への支援活動等を行うことを目的として設立された「オウム真理教犯罪被害者支援機構」に対し、多額の損害賠償債務を負っているところ、後述のとおり、現在も多額の資産を保有しているとみられるにもかかわらず、平成30年(2018年)以降は、約10億円に上る残債務(令和2年(2020年)11月判決確定)の支払を一切行わなくなっていることから、その支払から逃れることを企図しているものと思われる。

### 「Aleph」の資産状況

「Aleph」は、報告資産額について、令和元年(2019年)11月に約13億円を報告していたところ、令和5年(2023年)2月には約1,700万円まで急減させているが、公安調査庁の立入検査等の結果によると、実際には近年でも少なくとも8億円程度の資産を保有しているとみられる。



過激派は、暴力革命による共産主義社会の実現などを目指して、多数のテロ・ゲリラを引き起こしてきたほか、組織間の対立抗争（内



過激派の活動時における“伝統的スタイル”

## 若い世代の取り込みを狙う過激派

過激各派は、活動家の高齢化が進んでいることから、若者の取り込みを企図し、大学において、「反戦」を訴える活動などを通じて新入生の勧誘を行った。一部大学では学生生活動家の退学処分をめぐる大学側への抗議活動を展開して、一般学生に支持を訴えた。また、SNSを通じて活動への参加を呼び掛ける組織も見られた。

中核派では、大学生らの若手活動家が、成田空港関連の抗議活動（2月）で5人、G7広島サミットに反対する抗議デモ（5月）で1人、在日イスラエル大使館に対する抗議活動（10月）で1人、公務執行妨害などの容疑で逮捕されたが、これら活動家の中には、釈放後に、「闘いを引き継げたと誇りに思う」などと述べた者もいた。

ゲバ)により多くの死傷者を出してきた。現在、主な組織に「革マル派」、「中核派」、「革労協解放派」などがある。



国鉄浅草橋駅放火事件(注)(写真提供：時事)

(注)昭和60年(1985年)11月29日、中核派活動家約100人が、国鉄浅草橋駅(東京都台東区)を襲撃し、駅舎に放火して焼損させるなどした事件



大学入学式会場周辺における宣伝活動(4月、福岡)

## SNSを通じたソフトなイメージに注意

中核派では、学生組織の「Twitter」(現「X」)アカウントを開設(平成22年(2010年)1月)して以降、複数の同派系組織がSNSのアカウントを相次いで開設し、活動予定を告知するなど情報発信に注力している。

動画共有サイトのチャンネルでは、若手活動家が出演し、オリジナルグッズの販売に加え、視聴者と活動家が対面する「オフ会」の参加呼び掛け(1月)などを行ったほか、「前進チャンネル6周年」と称して、記念Tシャツを制作(6月)するなど、SNSを多用する「Z世代」の若者向けに発信を行っており、SNSを通じて同派と接点を持ち、活動に参加する若者も現れている。

中核派は、前出の国鉄浅草橋駅放火事件のほか、政府職員宅への放火などのテロ・ゲリラ事件や内ゲバによる殺人事件を多数引き起こしている。現在も、若者を抗議活動の前面に立たせ、逮捕者を出しており、SNSを通じたソフトなイメージに惑わされることがないように警戒が必要である。



「前進チャンネル」画像  
(上：[youtube.com/watch?v=kQZXQgJACog](https://youtube.com/watch?v=kQZXQgJACog)  
下：[youtube.com/watch?v=m3PxGEWhv-g](https://youtube.com/watch?v=m3PxGEWhv-g))



若者を抗議活動の前面に動員(「前進チャンネル」画像  
([youtube.com/watch?v=Jk3TTFKgV9Q](https://youtube.com/watch?v=Jk3TTFKgV9Q)))

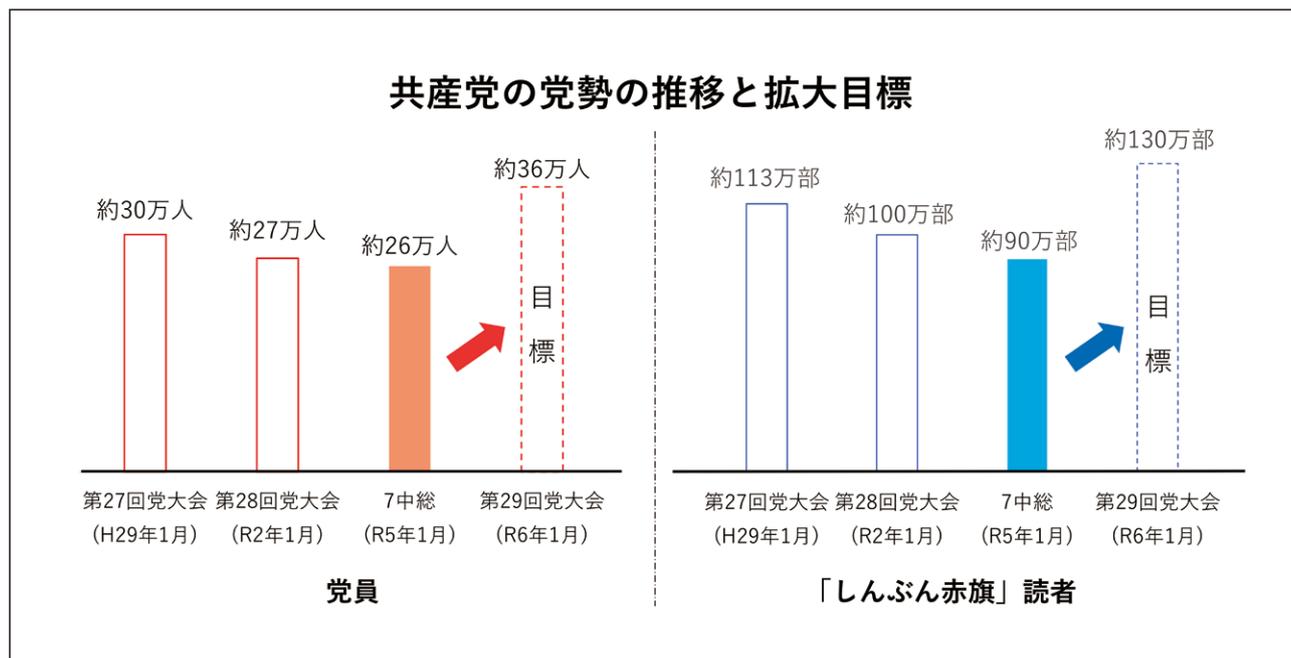
## 若い世代への継承に取り組む共産党

共産党は、第7回中央委員会総会（7中総、1月）において、「最も分厚い党勢をもつ世代が70代」であるとして、党勢や若い世代への継承に対する危機感を示し、令和6年（2024年）1月に予定する第29回党大会までに、党員・「しんぶん赤旗」読者を拡大するよう全党に呼び掛け、特に「若い世代・真ん中世代の党勢倍加」に取り組むよう訴えた。

さらに、第8回中央委員会総会（6月）では、

「第29回党大会成功、総選挙躍進をめざす党勢拡大・世代的継承の大運動」を提起し、5年間で「1万人の青年学生党員」を獲得することを呼び掛けるなどした。

しかし、第9回中央委員会総会（10月）では、「目標には大きな距離を残している」、「党員現勢で毎月前進するという水準にいたっていない」ことが明らかとなり、更なる運動強化を呼び掛けた。



(党大会及び7中総での報告に基づき当庁作成)

我が国の右翼団体は、明治期に西洋化や社会主義などに反発した者らが結成した国家主義的団体を始まりとする。戦後、特に1970年代以降は、暴力団の影響下にある団体（暴力団系右翼団体）の結成が見られるようになった。



日本社会党委員長刺殺事件（昭和35年10月、写真提供：共同通信社）

右翼団体の中には、自らの主張を実現するためには違法行為もいとわない体質を有するものがあり、拳銃や刃物を使った襲撃事件、街宣車による突入事件などを引き起こしてきた。



中国総領事館街宣車突入放火事件（平成16年4月、写真提供：共同通信社。当庁により一部加工）

## 右翼団体は中国などの近隣諸国との諸問題を捉えた活動に注力

右翼団体は、領土などをめぐる諸問題を捉えて、中国やロシア、北朝鮮、韓国を批判する活動を展開した。

取り分け、中国に対しては、尖閣諸島周辺の領海への中国海警局所属船舶の侵入、東京電力福島第一原子力発電所のALPS処理水の海洋放出を受けた中国政府による日本産水産物の輸入停止（8月）などに反発し、日中共同声明調印日に当たる9月29日を中心に各地で活発な「反中国」の街宣活動を展開し、「中国



中国批判を行う右翼団体（9月、愛知）

は尖閣諸島に近づくな」、「中国との国交を断絶せよ」などと訴えた。

## 右派系グループは「日韓断交」や「反移民」を訴える活動を展開

右派系グループは、日韓両国の関係改善が進む中、従前同様、「日韓断交」を繰り返し訴えた。また、「日本を崩壊させる移民政策に断

固反対」などと主張し「反移民デー」と称する取組を実施した（10月）（「[P.77 COLUMN](#) ②「右派系グループによる外国人排斥運動」）。

## COLUMN ①

## 街宣車に見る右翼団体の活動形態

**スピーカー**  
大音量で演説や軍歌を流すが、「静穏保持法」や「暴騒音規制条例」で警告・検挙が行われることも



**マイク**  
車上で演説することも

**中型街宣車**



**国旗、団体旗等**

**団体名**  
「国」「(大)日本」「義」といった文言が多用される傾向

**スローガン**  
「領土奪還」などの文言を多用



**伝統的な大型街宣車と「隊服」を着用する構成員**  
大型車は、攻撃対象への威圧と右翼内の勢力誇示を兼ねて、暴力団系右翼団体の間でいち早く定着。「隊服」には団体内の一体感を高める狙いもあるとみられる。



**小型街宣車**  
「自動車NOx・PM法」や「ディーゼル車規制条例」の制定を受け、大都市圏を中心に大型ディーゼル車から中・小型ガソリン車に切り替える傾向。



**“ソフト路線”**  
ふだんは威圧的なスタイルで活動する団体も、活動テーマによっては、「市民に訴えを届ける」ことを重視し、団体名を名乗らず、演説内容や口調を穏やかにすることも。

右翼団体は、伝統的に、団体名を大書するなど威圧的な外観に仕立てた大型街宣車に、団体独自の「隊服」を着た構成員が乗車し、スピーカーを使用して演説等を行う街宣活動を行ってきた。平成中期からは、いわゆる「排ガス規制」を受け、中・小型街宣車も多く見られるようになってきている。

また、最近では、威圧感を抑えた街宣車を使用したり、私服姿で穏やかな口調の演説をしたりするなど“ソフト路線”を演出する団体も現れている。

## COLUMN ②

## 右派系グループによる外国人排斥運動

在日韓国・朝鮮人に対する「ヘイトスピーチ」などが問題視されてきた右派系グループは、近年、「移民受入れ」に反対する活動を活発化させており、外国人が多数居住する埼玉県川口市においては、10月に約80人を集めてデモ行進を実施した。

これに対し、右派系グループを「レイシスト(差別主義者)」と批判するグループが、デモ隊に詰め寄って罵声を浴びせるなどの抗議活動を行っており、今後、両グループ間の対立の激化が懸念される事態となっている。



「移民政策反対」を訴える右派系グループ(10月、埼玉)